



エピック・ヘッジファンド・セレクション1 月次運用レポート

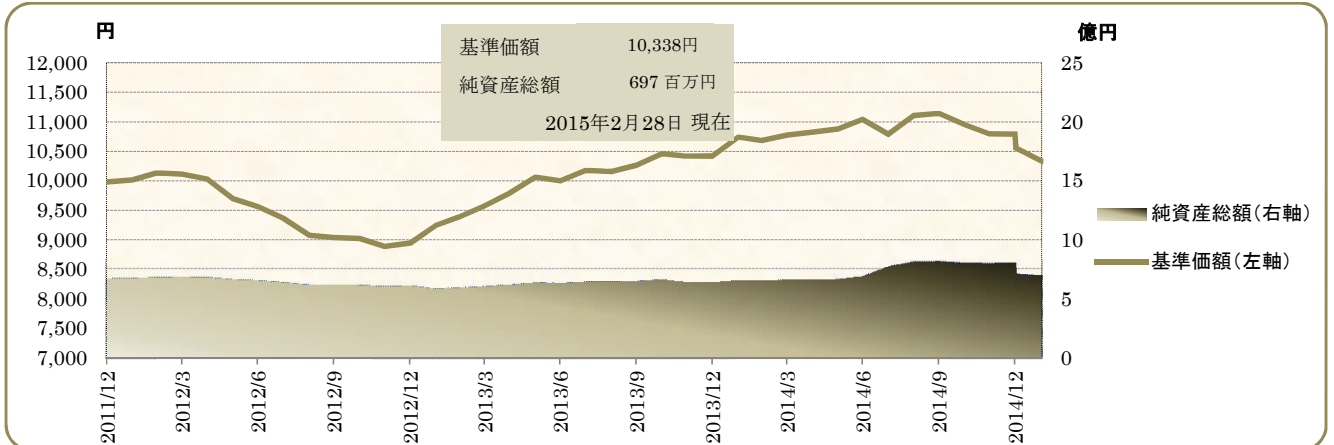
ケイマン諸島籍オープン・エンド契約型外国投資信託(追加型)

作成基準日

2015年2月28日

基準価額騰落率推移 (諸費用控除後, 税引前)

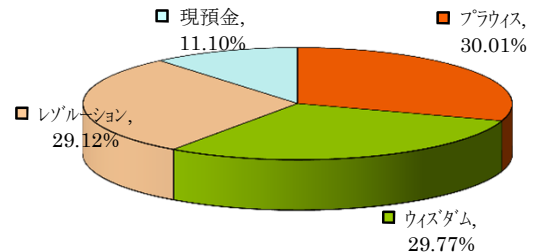
2015	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年初来
騰落率	-2.19%	-2.07%											-4.22%
2014	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年初来
騰落率	3.05%	-0.55%	0.89%	0.41%	0.55%	1.48%	-2.27%	2.94%	0.34%	-1.73%	-1.44%	-0.02%	3.54%
2013	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年初来
騰落率	3.32%	1.57%	2.01%	2.27%	2.77%	-0.68%	1.80%	-0.18%	1.03%	1.91%	-0.43%	0.08%	16.51%



運用実績

設定日:	2011年12月19日	
決算日:	毎年11月30日	
当初設定元本:	673百万円	
基準日:	2015年2月28日	
基準価額:	10,338円	対前月比 -219円
純資産総額:	697百万円	対前月比 -12.7百万円
設定来高値:	11,146円	
設定来安値:	8,888円	
期間別	3ヶ月	-4.23%
基準価額騰落率	6ヶ月	-6.93%
設定来	ファンド	3.38%
基準価額騰落率	TOPIX	110.60%
	日経平均	123.74%

投資対象ファンドへの資産配分 (2015年2月28日現在)



運用実績等に関するグラフ、数値等は過去のものであり、将来の運用成果等を示唆または保証するものではありません。

投資対象ファンドの基準価額騰落率推移 (諸費用控除後, 税引前)

2015	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年初来
プラウイス	-2.91%	0.43%											-2.49%
ウィズダム	-1.38%	-1.99%											-3.34%
レゾリューション	-1.92%	-4.43%											-6.27%
アドバンスド	-3.68%	-3.14%											-6.71%
バリエーション	-8.54%	-0.43%											-8.94%
2014	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月*	8月	9月	10月	11月	12月	年初来
プラウイス	2.24%	-0.37%	0.41%	1.08%	0.88%	2.08%	-0.16%	-0.32%	1.01%	-0.04%	-0.24%	-1.41%	5.22%
ウィズダム	0.94%	-0.06%	0.36%	0.81%	0.50%	1.06%	-0.30%	1.17%	0.46%	-0.04%	0.03%	0.33%	5.38%
レゾリューション	6.74%	-0.06%	2.94%	0.52%	1.36%	2.63%	-2.53%	5.02%	1.61%	-3.52%	-0.75%	2.09%	16.76%
アドバンスド	3.59%	1.01%	0.60%	2.15%	1.23%	2.72%	-1.24%	3.30%	-0.11%	0.03%	-0.40%	1.06%	14.71%
バリエーション	7.64%	0.92%	3.59%	3.63%	1.89%	5.28%	-2.17%	2.07%	0.65%	-0.96%	-2.24%	-1.19%	20.27%
2013	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年初来
プラウイス	2.93%	1.07%	1.65%	3.95%	3.00%	-0.09%	1.11%	-0.32%	0.23%	0.95%	-1.04%	-0.06%	14.08%
ウィズダム	2.59%	2.09%	0.71%	2.09%	2.03%	1.19%	1.36%	0.44%	1.06%	0.73%	-0.15%	-0.01%	15.05%
レゾリューション	5.82%	2.76%	4.78%	2.00%	4.83%	-1.97%	4.08%	0.46%	2.94%	4.90%	1.06%	1.46%	38.27%
アドバンスド	7.06%	6.89%	2.79%	6.39%	5.21%	4.71%	4.15%	0.84%	1.20%	1.91%	-2.71%	1.61%	47.65%
バリエーション	11.36%	2.57%	1.43%	14.44%	7.46%	1.93%	3.77%	0.67%	0.51%	3.33%	-5.39%	3.07%	53.66%

* 上記騰落率は投資対象ファンドの費用控除後の騰落率です。エピック・ヘッジファンド・セレクション1 (以下「HFS」という) にかかるコスト等が含まれないため、投資対象ファンドの騰落率を資産配分結果で加重平均した場合、HFSの基準価額騰落率とは一致いたしません。

* バリエーションの騰落率は、2014年6月以前はJPY-Sクラス、2014年7月以降はJPY-Fクラスの騰落率です。アドバンスドの騰落率は、2014年6月以前及び2014年12月以降はJPY-Sクラス、2014年7月～11月はJPY-Fクラスの騰落率です。年初来の収益率は月次収益率を時間加重したものです。



エピック・ヘッジファンド・セレクション1 月次運用レポート

相場動向

2月の株式相場は、日経平均で6.36%上昇の18,797.94円、TOPIXで7.69%上昇の1,523.85ptとなりました。月初こそ下落して始まりましたが、原油先物相場が底打ちしたとの見方から上昇に転じ、ギリシャ問題の進展や年金運用の国内株比率引き上げ発表などの好材料もありその後はほぼ一貫して上昇し、日経平均は約15年ぶりの高値となりました。

上旬は、海外の経済指標が弱かったことや日本国債の金利急上昇を嫌気して下落して始まりました。しかし原油価格が下げ止まり、投資家心理が改善したことで上昇に転じました。

中旬に入っても上昇基調を維持、またギリシャ問題に進展が見られたことも相場を支え、金融株を中心とした主力の大型株に買いが集まりました。

下旬には、国家公務員の年金資産運用で国内株式の比率を増やすことが発表されるなど需給への期待も高まりました。海外投資家を中心に日本株を買い増す動きが広がったことで上昇を続け、

2000年4月来の高値で取引を終えました。

東証一部の売買代金は月を通じて活況の目安とされる2兆円を超え高水準となりました。

需給面では、個人投資家が大きく売り越して利食いの姿勢が見られました。また、海外投資家が2か月連続で売り越しとなりましたが、売り越し幅は1月から縮小しました。一方で信託銀行は10か月連続の買い越しとなっており相場を支えている状況が続いています。

セクター別騰落率では、その他金融、銀行、証券、商品先物取引業などの金融セクターが上位となり、空運、電気・ガスといった比較的ディフェンシブな業種や、原油が底打ちしたことでゴム製品が下落となりました。

ファクター面では、リターン・リバーサル効果が強く見られました。また、配当利回りやPBR、PERといったバリュエーション効果も見られました。

組入ファンドの運用状況と今後の市況見通し及び投資戦略

【ブラウイス】

＜ファンド運用状況＞

2月の運用成績はJPYクラスで+0.43%となりました。プラスの要因として、①1月のような極端なリスク回避的な動きが緩和され、バリュエーション系の指標の改善がみられたこと、②電機、機械、小売りセクターにおいて割高・割安の修正があったことがあげられます。

セクター別の損益は電機、小売り、機械でプラスとなり、化学、サービスでマイナスとなりました。

＜今後の市況見通し及び投資戦略＞

3月の株式市場は緩やかに上昇する相場展開を想定します。2月の大幅な上昇により、バリュエーション面での割高感やテクニカル指標面での過熱感がありますが、公的年金による日本株買いが続いていることから株価の調整リスクは少ないと考えます。

今後の運用方針は、個別企業の業績・需給動向や国内外のマクロ動向を勘案し、相対的な割高・割安を適切に判断しながら、マーケットの上下に左右されない安定した収益の獲得を目指します。

【ウィズダム】

＜ファンド運用状況＞

2月の運用成績はJPY-Fクラスで-1.99%でした。マイナスの要因としては先月と同様に①ファンドのアンワインド（解消）と思われるフローにより、割高株が買われ、割安株が売られる展開となり、企業のファンダメンタルズが機能しづらい状況でした。②過度なディフェンシブセクターへの資金シフトは継続しており、ショートポジションの割高株が大きくアウトパフォーマンスしたことが挙げられます。

個別銘柄レベルでは、ロングポジションで野村HD (8604)、三菱UFJフィナンシャルグループ (8306)、ショートポジションでは神戸物産 (3038)、エフ・シー・シー (7296)がプラス収益に寄与しました。

＜今後の市況見通し及び投資戦略＞

3月の株式市場は上昇を予想します。GPIFや他の公的年金が昨年末から国内株式の投資比率引き上げに動いており株式需給が良好なこと、来年度の国内主要企業の企業業績は16%増益が期待されることなどから高値もみ合い後は上値を試す相場展開を予想します。

今後の投資戦略につきましては、クオンツモデルとトップアナリストによる投資評価の双方を活用し、銘柄選択により安定的な収益を目指します。

【レゾリューション】

＜ファンド運用状況＞

2月の株式市場は、前月以上に小型株の弱さが目立ち、大型株中心の上昇相場となりました。

大型株についてはバリュエーション優位となっているものの、小型株については先月に続き、割安指標が逆指標となりました。

ポートフォリオは、情報通信、サービスなどのセクターをオーバーウェイトし、小売セクターをアンダーウェイトとしました。また、小型株ロング、大型株ショートの状態を維持しました。

足元で業績好調となっている FPG (7148) やデジタルガレージ (4819) のロングがプラス寄与となりました。一方で、バリュエーション低下が見られたロングや一部高バリュエーション銘柄のショートがマイナス寄与となりました。

全体として、インデックスに劣後したロングが多く、高バリュエーション銘柄のショートが足を引っ張ったことから、パフォーマンスの確保に至りませんでした。

＜今後の市況見通し及び投資戦略＞

需給要因による上昇相場が続く、売買の対象が一部銘柄に集中している傾向が続いています。

小型株については、全体として閑散としており、ファンダメンタルから乖離した値動きが修正されつつありますが、一方で、業種内、業種間のバリュエーション格差が目立っています。

割安株を買う動きに乏しく、先月に続き、昨年来の相場転換が見られない状況となっており、リスク回避的な行動と指数の上昇とのアンマッチが継続しています。

まだら模様の第3四半期となりましたが、今後、来期を意識した銘柄選択に視点が移るとともに、一部銘柄に売買が集中するよう一方通行の銘柄選択にも個別変化が生じると考えます。

引き続き、来期業績を考慮した、定性的なプレミアム付与が可能なグロース性を重視した銘柄選別を行います。

業績モメンタムの変化に留意し、継続した業績拡大余地の大きい割安銘柄の組入を行います。

成長力や競争力といった中期的な視点により割安銘柄と割高銘柄の選別を進めます。

投資信託の主な関係法人

管理会社:	インターナショナル・マネジメント・サービス・リミテッド
信託会社:	G.A.S. (ケイマン)リミテッド
管理事務代行会社:	エスエムティー・ファンド・サービス(アイルランド)リミテッド
保管銀行:	スミトモ・ミツイ・トラスト(ユークイ)リミテッド
投資運用会社:	エピック・パートナーズ・インベストメンツ株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第432号 加入協会:一般社団法人 日本投資顧問業協会
代行協会員・日本における販売会社:	ヘッジファンド証券株式会社 http://hedgefund-sec.com/ 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第2580号 加入協会:日本証券業協会



エピック・ヘッジファンド・セレクション1 月次運用レポート

金融商品取引法に基づく表示

商号等

エピック・パートナーズ・インベストメンツ株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第432号

当社が加入する協会等について

一般社団法人 日本投資顧問業協会 加入 第011-01395号

ご留意事項

- 当資料は投資信託の運用状況をお知らせするためにエピック・パートナーズ・インベストメンツが作成した資料であり、法令に基づく開示資料ではありません。
- 投資信託をお申し込みの際は、販売会社から投資信託説明書(交付目論見書)をお受け取りになり、その内容をよくお読みいただきご確認のうえ、お客様ご自身が投資に関してご判断ください。
- 当資料は特定の有価証券等の取得の申込み、投資顧問契約、投資一任契約の勧誘等を目的としたものではありません。
- 当資料内の運用実績等に関するグラフ、数値等は過去のものであり、将来の運用成果等を示唆または保証するものではありません。
- 当資料内のいかなる内容も、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。
- 当資料は各種の信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。
- 投資信託は、株式等を投資対象としますので、組入株式の価格下落や、組入株式の発行会社の倒産や財務状況の悪化等の影響により、基準価額が下落することがあります。
したがって、投資家の皆様の投資元金は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失が生じることがあります。
- 運用管理費用、監査費用、その他の諸経費が、投資信託の保有期間に応じてかかりますが、事前にその上限を示すことができません。また、有価証券の売買等に係る手数料、租税等が発生しますが、運用の状況により変動しますので事前にその上限を示すことができません。

当資料は、投資運用会社であるエピック・パートナーズ・インベストメンツが投資信託の運用状況をお知らせするために作成した資料であり、法令に基づく開示資料ではありません。
投資信託をお申し込みの際は、販売会社から投資信託説明書(交付目論見書)をお受け取りになり、その内容をよくお読みいただきご確認のうえ、お客様ご自身が投資に関してご判断ください。